

新たな歴史の始まりを 皆さんとともに…

瀬棚町長 平田泰雄

新年あけましておめでとう
ございます。
町民皆さんには、希望に満ちた新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。
この一年が、昨年にも増して明るく健康で過ごされますようお祈りいたしますとともに、日頃、まちづくりにお寄せいただいておりますお力添えに対しまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

平成16年を振り返って

昨年を象徴する世相漢字のトップは「災」。新潟県中越地震や相次ぎ上陸した台風による被害などがその理由でした。

毎年のように暗い話題が多い一年でしたが、真紅の大優勝旗が初めて津軽海峡を渡った駒大苫小牧高校の甲子園での活躍は、私たち北海道民に大きな感動を与えてくれました。

さて、瀬棚町の一年を振り返りますと、3月に有機農業推進特区が認定され、民間による新たな農業の取り組みが始まりました。4月には日本初の洋上風車が本格稼働、生活支援ハウスがオープンしました。また、医科診療所に電子内視鏡などが導入され一層の医療の充実が図られました。6月には姉妹都市アメリカハンフォード市から訪問団の皆さんが来町、札幌でのYOSAKOIソーラン祭にも参加されました。

平成17年 新年のごあいさつ

新しい活力あるまちづくり、 歴史づくりのため、私たちの勇気に 誇りをもって、皆さんとともに

た。11月には当町からハンフォード市を訪問し、今後の交流を確認してまいりました。

過去、最も多くの台風が日本に上陸した年でした。中でも9月の台風18号は日本海沿岸を直撃。当町にも大きな被害を及ぼしました。一方、真夏日の記録となった夏の異常気象など、不安定な一年でもありました。

檜山北部3町の合併については、昨年4月に始まりました法定協議会での協議を終え、12月の協定調印式、そして3町議会で合併関連議案が可決されました。

いよいよ本年9月1日。新生「せたな町」が誕生します。

新たな歴史が 始まります

明治13年、「瀬棚」誕生から125年余りの歳月が流れ、町の歴史は瀬棚に住む人々の歴史として息づき、幾多の困難を乗り越

えながら今日の瀬棚町へと引き継がれてまいりました。

時代は、明治から大正、昭和そして平成と移り、人々の暮らしぶりや町政をめぐる環境が大きく変わる中で、地方主権を柱とした地方制度改革を目的とする国の強い方針が示されました。平成の大合併と言われる一連の流れは、自治体の声が届くことなく地方財政への圧迫という形で国の強い指導のもとに進められてまいりました。

過疎化の進行と少子高齢化、慢性的な財源不足が続くという大変厳しい状況の中において、私たちは何とか合併せずには活気のある元気な町を取り戻そうと頑張つてまいりました。

合併協議は、こうした矛盾の多い中での議論でしたが、こんな時代だからこそ、いち早く3町が力を合わせるこの大切さを認識し、合併の道を選びました。

合併後の新しい町づくりは、決して平坦な道程ではないと思いますが、地域主権の自覚の

もと、3町の和をもって新しい活力ある町づくり、新しい歴史づくりのため、私たちの勇気に誇りをもって、町民みなさんとともに進めてまいりますことをお誓いし、これからも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



苦勞のかいがあるまちづくりを

瀬棚町議会議長 柳田 眞

明けゆく平成17年の念頭にあたり、謹んで初春のお慶びを申し上げます。

町民の皆さまには、ご家族おそろいで健やかに新しい年をお迎えなされましたこととお慶び申し上げますとともに、昨年瀬棚町議会にいただきました深いご理解とご協力に対し、深甚なる感謝をいたし、新年のご挨拶を申し上げます。

さて、かえりみる平成16年は、オリンピックで史上最多のメダル獲得、イチロー選手が48年ぶりに塗り替えた大リーグの最多安打、北海道でも日本ハムファイターズのプレーオフ進出、さらに夏の高校野球では越えたことのない白河の関を飛び越えて真紅の優勝旗を持ち帰った駒大苫小牧高校の快挙など、喜びの話題も切れ目無かった反面、大雨や大型台風さらには中越地震など、復興の道のりの厳しい地域が数多くあり、南西沖地震を経験して痛みを知る私たちとしても心からお見舞いを申し上げたいと存じます。

瀬棚町におきましても台風18号、その後の低気圧による暴風・高波などで大きな被害を受けましたが、人的被害がなく、このことは心安まることであ

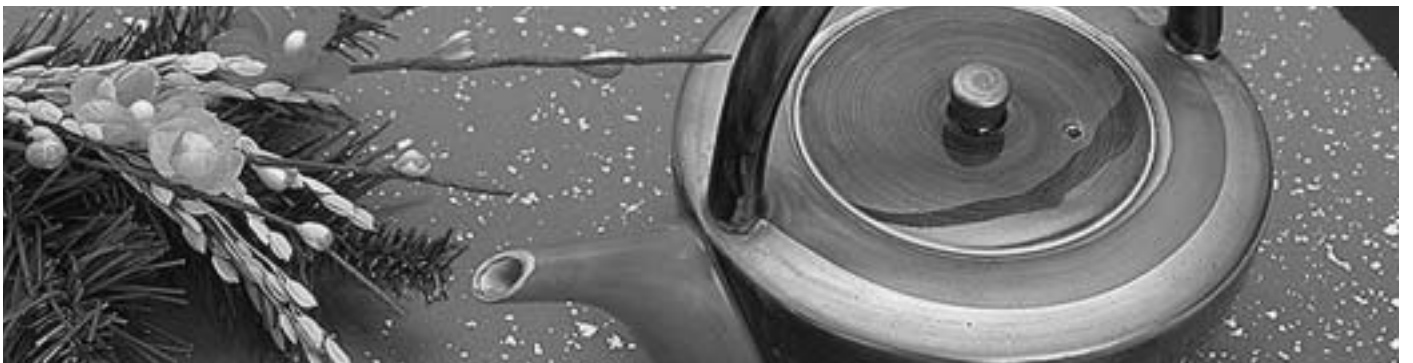
ろうと思っております。

災害が発生するたびに打撃を受ける一次産業の町、檜山北部3町が旧自治体の姿形をはっきりと残しながら、合併というひとつの町として力を結集し、先人の築いた輝かしい歴史を忘れることなく、新しい歴史の第一歩を踏み出す3町合併調印式が師走の7日に行われました。素直に思うに、出来るなら単独で生きた方が良いのかも知れません。しかし、郷土の明日と次代を考え、一点の曇りもない量りと物差しに計ったとき、合併の選択は課題と期待が背中合わせであったとしても誤りではないと考えます。

苦勞して互いに譲り合ってこぎつけようとする合併が、苦勞のかいがあったといわれるまちづくりを皆さまとともに進めたいと考えます。

この平成17年は大きな変革の年であるのかもしれませんが、難題続きの中でありますが、地方議会の責任と役割をしっかりと果たして参ります。

町民皆さまの本年のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。挨拶といたします。



たくましく心豊かな「せたなっ子」

瀬棚町教育委員長 工藤芳江

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、お健やかに希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお慶びを申し上げます。

日ごろより児童生徒の健全育成に関係機関また、地域の皆さまのご支援やご協力に對し、ましても心より感謝とお礼を申し上げます。子どもたちも総合的学習時間では、皆さまのご指導をいただきながら、瀬棚の恵まれた自然環境の中で特色を活かした学習をしているところでもあります。

スポーツの年であった昨年は、さまざまな選手たちの活躍を通じて、子どもたちは感動を受け、物ごとに関心を持ち「かわる力」が一層強まり、粘り強く最後までやり抜くということを学ばれたことと思えます。部活動また、スポーツ少年団などの活躍でも日々の努力の積み重ねにより、夢を持ち、大きな希望と勇気が得られることと思えます。

最近、全国各地で子どもが被害者となる事件が続発し、また、子どもたちによるさまざまな犯罪も発生していることに驚き、心を痛めているところであり、誠に残念なことであり、少子化、都市化、核家族

化、希薄化などが問題となろうかと思われま。

国の政策により檜山北部3町の合併も決まり、また、義務教育費削減問題などが取りざたされる中、子どもたちも今までと違う何かを感じ得ていることかと思われま。子どもたちの教育は、家庭教育が基礎となり、さらに学校教育と社会教育が一体となることが望まれ、家庭でしつけられ、学校で学び、社会で育てるものと思われま。

学校では瀬棚町教育推進の重点の人間像「せたなっ子」を育むよう各学校が一丸となつて教育の実践に取り組んでいるところでもあります。たくましく、心豊かな「せたなっ子」の健やかな成長を願つて、家庭、学校、地域の連携により、3町の合併がなされても今までと変わらない子どもたちの成長、また、より以上の進展を見守つていかなければならないものと思ひま。

今年も皆さまのさらなるご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、平成17年は皆さまにおかれましては最良の年でありませうとご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。